

## 四つの課題と弱さの克服

### 第四章 なぜ、許してしまうのか(後半)

司会Ⅱ「資本主義のかす漬け」という言葉は、19歳の時に三池20周年記念集會に参加したとき、当時の三池労組書記長であった塚元敦義さんから初めて聞かされた言葉を衝撃を受けたことを覚えていません。Yell思いをこめてレポートします。

#### 3. 資本主義のかす漬け

労働者の「主体性の確立」とは何でしょう。私たちは資本主義的常識にどっぷり漬かって生きています。この資本主義的常識

が、労働者が主体性を確立していくことを常に邪魔しています。主体性の確立を邪魔している、労働者の身体のなかに染み込んでいる四つの弱さを明らかにし、克服しなければなりません。

#### 企業意識

第一に、「会社あつての労働者」という企業従属意識、あるいは公僕意識、聖職意識等々が、会社や当局と闘おうという意識を眠り込ませるのです。したがって、労働者の生活と企業の発展は「運命共同体」という考え方になり、それが、労働組合の労働

資協調路線となり、合理化反対と言えなくなり、右傾化の大きな流れとなり、総評解体・連合成立を招くこととなったのです。

#### 自分の能力不足

第二は、人間らしく働き生き続ける条件を、社会が保障する責任があることを見失っていることです。保障しなければならぬものは、①生命と健康②働く場所(雇用)③労働力の再生産としての賃金④子どもとの教育と老後の社会保障⑤平和と民主主義…これは①〜④の前提であり土台です。これらを保障しない社会のしくみに貧乏の

## ◆みんなの学習講座



資本主義のかす漬け状態の中で生きる労働者

原因があるのに、自分の能力不足が原因であると考え、弱さになっています。

### 仲間との競争で生き抜く

第三は、身近な仲間との競争によって、よりよい生活を求めていくという誤った考え方です。資本主義社会の下では、労働者

は団結し資本と闘うことで、現状の改善を勝ち取り、その積み上げの団結力で解決の道に近づくことができるということを否定する、競争にのめり込み、命まですり減らす道を歩むのです。この弱さが、成果主義評価制度を受け入れてしまうのではないのでしょうか。

### 勝つか負けるかの物取り主義

第四は、勝つなら闘うが負けるならやめる、という物取り主義の考え方が闘いを行き詰らせます。本来労働者は、闘いながら仲間を組織し、団結を強化・拡大しながら更に闘いを強化していきます。資本と闘うこの社会を支配している敵との闘いに勝利するためには、労働者の闘いの多くは敗北で、負けの連続を闘い続けることによって最後に勝利できる階級的団結を築くことができるのです。この理解が不十分なため、資本の攻撃によって労働組合の右傾化を許し、労資協調路線にどっぷりと漬かり、今日のような成果主義、評価制度の人事考課を許すことになっていきます。

### 古典、資本、仲間に学ぶ

それでは、この四つの資本主義のかす漬けを洗い流すにはどうすればよいのでしょうか。それは、「三つの先生」である、古典（科学的社会主義）に学び、資本の攻撃と仲間の闘いから、不断に学び続けていくことによって、かす漬けを洗い流していくことができます。この「洗い流す」という意味は、「三つの先生」を結合させながら学び続けることによって、「四つの弱さ」を克服し、次の四つの課題を労働者一人ひとりが身に付ける（確立する）ということです。

それは、

- ①労働者が、社会の主人公。
- ②貧乏の原因は、社会のしくみにある。
- ③であるならば労働者は、人間らしく働きたい続けるためには、団結を強化し、闘い続ける以外にない。
- ④そして、その闘いは、最後に必ず勝利するという必然性（歴史法則）にある。という考え方です。



社会の主人公は労働者

## 労働者が社会の主人公

補足として、この「四つの課題」は、例えば「労働者は社会の主人公」であるという言葉を覚えておくのではなく、資本主義の常識では「会社あつての労働者だ」という、会社が社会の主人公になっているので、それは何故間違っているのか、歴史的に社

会が存続してきたのは、労働であり、社会の富（価値）は労働によって生み出されている。故に、この労働の担い手である労働者が社会の主人公であるというように、歴史的・論理的に理解しなければ、「確立Ⅱ身につく」ということにはなりません。

### 会社あつての労働者なのか

司会Ⅱここでは私たちが四つの課題について、改めて考えていくというものになりま

す。最初に企業意識ということですが、いかがですか。  
AⅡ全くなかった。  
MⅡ就職して最初の頃はありました。会社がつぶれては元も子もないということ

です。  
司会Ⅱこの前提には、労働者が働くことによつて世の中が成り立っているという意識があるかないかが問題となっています。

MⅡ民間会社の現状では、「会社があるから自分たちが生きていけるのだ」というのも無理はないという感じですね。

IⅡ同じ会社でも、正規職員と非正規職員

の間でも違うのかなと思います。非正規だと、いつ切られるかわからないという不安になるわけですから、雇ってもらえているという思いはより強いのかなと。

MⅡ組合が強ければ少しは違ってくると思いますが、正規でも非正規でも当局側、組合側のどちらにでも傾く要素は常に持っているのです、相当に学習して意識づけができていないと企業意識の払拭は難しいと思います。

HⅡ社会的に産業予備軍（失業者）がいる間は、仕事に就けている労働者の心には常に会社に雇ってもらっている、選んでくれているという気持があると思います。

YⅡ現在は、このような労働者側の視点での情報は、職場でもなかなか入っていない状況にあり、考えるきっかけも材料もないため、ますますみじめな状態で働かされてしまっていますね。

HⅡ競争意識というか、人よりも社会的に認知されている良い企業に就職すると、何か誇らしいというか、社会的に差をつけている感じがありますね。

## ◆みんなの学習講座

**司会** 人の評価も、給料が高いところに勤めていけば、それだけで良い会社に就職していると評価されてしまう感じがありますね。これもまた企業意識と言えるでしょう。「資本主義のかす漬け」という言葉、言われてみれば資本主義社会では24時間中そういう情報しか得られません。

**Ma** 生まれてこの方、この資本主義社会のなかでしか生きていないから、資本主義的常識しか刷り込まれていないですからね。そんななかでも三池では、抵抗闘争が芽生えたということは、この常識は覆すことができるということなのでしょう。

### 人間らしく生きる条件はあるのか

**司会** 二つめにある自分の能力不足というのですが、本来は資本主義社会そのものに問題があるのですが、個人の責任、問題として思わされているからです。高卒で大学に行っていないとか、一流大学でなかったとか、パソコン主流となった職場で仕事が遅いとか、という形で、個々の能力不足を問われるのです。

**A** それは大いに感じますね。

**司会** 今、安倍政権では、労働者が100万人増えたと言語していますが、その大半は非正規労働者です。明日も見えず、働いても生きていけない労働者を増やしただけのことです。本来労働者の賃金は、労働力の再生産費として生活費が保障されていないことですが、そうならないといけないことなのです。そして、非正規労働者は、自身の賃金を非正規だから仕方ないと個人の問題として思わされているのです。

**Ma** 私も生活保護の担当をしていました。貧困の再生産といいますが、生活保護受給世帯やそれ以外の貧困世帯では、親がそのような状況に置かれることで、その子どもも働くということを意識しなかったり、教育にも格差が出て、結果的にその子も貧困になっていたり、という負の連鎖が生まれている状況があるように思います。

**Y** 小さいところから働くことを意識できないという思想的な環境や、教育を十分に受けられない、という実質的な環境に差があり、そこから脱出できていません。そし

て、結果的に貧困を再生産している、負の連鎖があるということですね。

**H** 結局、貧困者は搾取されてそういう状況に置かれています。資本家側や裕福な者はそれを引き継いでいくため、維持するために貧困者は貧困者のままでもいらわないと。アメリカンドリームのようなものが、どんどん起こるような社会構造では都合が悪いわけですね。

**Ma** このところの評価制度で基準とされている能力というのは、結果を出せる能力が重点に置かれています。でも、そもそも労働者が資本家側に売っているのは労働力という1日8時間働くという能力であって、判断能力とは全く別のもので、その能力という風に思わされているので、自分の能力不足という弱さに陥るのです。

**H** ここでいう資本家側が言う能力は、社会的に教育などで培われるべき能力であって、そもそもその環境自体に格差がつけられている現在の社会では、差があつて当然です。労働者自身ではどうしようもないことだと思えます。



労働者が100万人増えたと言っても大半は非正規労働者

### 仲間は競争相手なのか

司会 Ⅱ自分の能力のせいではない、ということに労働者が気付くためには、学習会などの経験による問題意識が生まれないことには、いつまでも変わりませんね。気付かないままではどうしても他の者より優れているという競争意識に陥りますし、試験制

度も受け入れやすい状況になりますね。

M Ⅱ昔は各労働組合で労働者としての話し合いの場がありました。次第にそれらがなくなっていくと、仲間との意見の交流をする場がなくなってしまう。逆に資本側は、あらゆるグループをつくり労働者を管理して徹底的に思想教育を行っています。

### 労働者として怒りの声を

Y Ⅱ労働者の意識は、闘いのなかから生まれるものであり、闘いがなくなればその自覚もなくなってしまうのです。

日本ではそのような状況ですが、今世界中では激しい抗議行動や闘いが行われています。

しかし、これらはインターネットを通じての結集であることが多く、そのことに一抹の不安を感じます。組織性がないのです。労働者は団結して闘って、敗れ、また団結を強化して闘うというなから、労働者階級としての自覚が芽生えていくものですが、ネットを介しての単発的でお祭りのな結集

でそれが築かれるのが甚だ疑問です。

司会 Ⅱ郵政ユニオンでは今組合員が増えています。職場では非正規の人が多いのですが、彼らは正規職員になりたいと願っています。

しかし当局は、組合員になったことを理由の一つにして正規への道を閉ざしています。

それでも全国的にユニオンに加入する仲間が増えているというのはなぜかということ。本質的に正しい方法といえますか。状況を打開したい、何とかしようという気持が強く、差別されることを覚悟の上で加入しているのです。彼らは意識的に加入しているのです。これはすごいことです。

S Ⅱ去年21歳で組合に加入したKさんは、今では職場でもが言えるようになっていきます。その力は、「組合に加入したからだ」と思っている。「職場の人は、命令口調でしか話さないが、組合の人は親切で、話を聞いてくれて、まるで家族やクラスメイトができたような気がする」ということです。

## ◆みんなの学習講座



闘う労働者

人間的な温かみ、これが組合にあつて職場にないもので大切なものなのだ、と思います。

### 労働者階級の歴史的役割

K r II 労働者は最後に勝利する、というところ

ころですが、理論的にはこれまでの古典学習等で少しずつ分り始めてはいますが、実践的には僕らの年代は大きな闘争は経験がないので、資本主義のかす潰けをいかに克服するかを少しずつ学習しているところです。

そして、さらに若いメンバーをどう組織していくかが課題で、学習会を継続し、ともに学び合ひながら、自分自身の生き方も含めて見せていかないと、今後はさらに厳しくなっていくのかなと思います。

H II 資本主義のかす潰け、というのが全てにおいてキーワードになっていると思えます。特に職場でも個人責任が当たり前になつてきている今日では、仲間と話せない、相談ができないというなかで、資本主義的常識にならざるを得ない状況になっています。

そこで労働者が必ず勝利するというのは、理屈はわかっても、イメージはできないのが正直なところです。労働者と資本側が、まさに命をかけて血で血を洗う闘いの末、労働者が勝利するというのですが、今の

労働者の現状では必ず勝利する、と言ってもいつになるのか、遥か彼方のように思えます。

M II 私たちも社会主義をめざすと言ひながらも、資本主義のかす潰けのなかで、どうしても個人では常にそちらに引つ張られています。

やはりみんなで話をしたり学習会をしたりすることで、常にそういう気持を排除していかないと、やがて運動もすたれていくのだと思います。

Y n II あらためてこの本を読み返してみても、この第4章は、一番運動の難しさを痛感させられる箇所だと思います。

しかし、地球上で人類が生まれてからこれまでの人間の進化には驚かされます。そう考えると社会の発展法則から労働者は必ず最後に勝利するのは間違いないと思えます。

司会 II ありがとうございます。少し展望が見えてきたような気がしました。

次回、賃金とは何か！ 第五章「働くものの賃金論」です。